

聖書:使徒の働き13章1～12節

説教:神のことばを宣べ伝える

はじめに

この教会は今年で設立22年目を迎え、私もだいぶポンコツになり後任の牧師のことが大きな課題となってきました。そういう意味で教会は一つの節目を迎えようとしています。そういうときにもう一度原点に戻り、使徒の働きを開きながら、初代の教会はどのようにして生み出され、どのような歩みをしていったのか、困難にぶつかったとき彼らはどのようにして乗り越えていったのか、教えられたいと願っています。

パウロは生涯のうちで三回の伝道旅行をしたのですが、そのうちの最初の伝道旅行が今朝開いている13章から始まります。彼が福音を宣べ伝えようとしたときどんなことが起きたのか。そこにどのような神の助けがあったのかを見ていきます。

1 アンティオキア教会

1) 成立事情

内容を見ていく前に、地名と登場人物について予備知識を蓄えておきます。まずアンティオキアですが、聖書の後ろにある地図に載っていますので確認しておいてください。今のトルコの南端地中海に面していて、当時は五十万人が住む国際都市であったと言われます。エルサレムで大きな迫害があったとき、この町にイスラエルから逃れてやってきた人たちが主イエスの福音を宣べ伝えたところ、大勢の人が信じて主に立ち返った。それでアンティオキアに最初の教会が建てられていったということが11章に書かれています。キリストを信じているということだけで迫害される時代に、恐れずにキリストを伝えていった先輩たちの熱心に感心しますが、それと同時に、迫害から逃れて難民となった人たちが福音を語っても、偏見を持たず差別しないで、アンティオキアの人たちが福音を受け入れた。そのことにも驚きます。

2) バルナバとサウロ (パウロ)

続いてバルナバとサウロ (パウロ) について。まずサウロから。ご存じのように彼が熱心なユダヤ教徒としてキリスト者を迫害していたとき、突然空から強い光を受けて地面に倒れ、イエス・キリストから「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか」との声を聞き、これをきっかけにキリスト者となった人です。ところが昨日まで教会を迫害し

ていサウロが「私はキリスト者になりました」と言っても、当然のことですがだれも信用しない、教会出入り禁止になってしまう。そんなときにバルナバという人が現れ、サウロの身元引受人になったので、ようやく出入り禁止が解かれ、教会の仲間として迎えられた。ところがこんどは、ユダヤ教のグループからサウロは裏切り者だとされ、いのちを狙われるようになったので、数年間故郷のタルソに身を隠していた。ほとぼりが冷めたころ、バルナバがタルソからサウロをアンティオキア教会に連れ戻り、一緒に活動をするようになっていた。それが今日の箇所の背景です。

3) 祈りと断食

ではアンティオキア教会はそのとき何をしていたのか。2節。「彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が「さあ、わたしのためにバルナバとサウロを聖別して、わたしが召した働きに就かせなさい」と言われた。」

主を礼拝していた。そんなことは当たり前だと、みなさんは思ってくださいるはずですが、まアンティオキア教会は救われる人が増えて順調に進んでいるように見えます。そういうとき、どんな組織でも起こりがちなことですが、考えることがどんどん内向きになり、守りに入ることがある。建物をどのように飾ろうか。目に見える所を大切にしようとする。神が中心にあるのではなく、能力のある人が中心になって活動していく。そうやって関心が礼拝からどんどん遠ざかるということがある。しかしアンティオキア教会はそうではなかった。神を礼拝をしていた。神が中心にありました。

そして二つ目に、断食していたとある。ここだけ読むと教会は必ず断食をするのか、と思うかもしれませんが。しかし使徒の働きでは「断食」について言及しているのは数カ所しかなく、かなり特別なこととして扱われています。いつも断食していたのではない。イエスは断食について、パリサイ人たちのように形式として行うものではない。罪によって心から悲しみを覚えるとき、ものが食べられなくなる。それが真の断食であると教えてくださっています。

です。ですのでこれは想像になりますが、アンティオキア教会に罪に関する大きな問題が起き、教会が揺さぶられほどの試練に直面していたのではない

か。それで彼らは断食をしていたのでしょうか。そこには神が中心として礼拝する教会の姿があります。

2 わたしが召した働き

1) 神のことばを宣べ伝える

教会が立つか倒れるかギリギリ迫られるようなとき、断食をして悔い改めていった。そうしたら不思議なことが祈っていると聖霊が働いて、「わたしのためにバルナバとサウロを聖別して、わたしが召した働きに就かせなさい」との声が聞こえた。

いったい誰の耳に聞こえたのだろうか。たとえば牧師に聖霊の声が聞こえるということか。私の場合ですが、みことばをとおして、教えられるとか気づかされるということがあります。でも聖霊の声が聞こえたという経験はありません。アンティオキアの場合も、最初一部の人にだけ聖霊の声が聞こえたのだと思います。それが本当かどうか教会全体は時間をかけて吟味し、慎重に確認し、これは聖霊の声であったと最終的に確認していった。その一つ一つの過程にも聖霊は働きます。

2) 霊の戦い

そうやって二人は送り出され、キプロス島に向かい、島全体を巡回しながらユダヤ人の会堂で福音を宣べ伝えたところ、ローマ帝国から派遣されていた地方総督セルギウス・パウルの目にとまり、神のことばを直接聞きたいということになり、二人を官邸に呼ぶことにしました。ところが、総督のそばにひかえていた魔術師エリマの邪魔が入ってしまう。魔術師がなぜ総督官邸に出入りしていたのか、不思議に思うかもしれません。別に驚くことではない。日本でも、有名な政治家や大企業の経営者、芸能人が、霊能力者と呼ばれる人に伺いを立てるといことは、表に出てこないだけで珍しいことではないと言われています。魔術師エリマの場合は、総督の相談役となって大きな利益を上げていたのでしょうか。ですから総督がバルナバとサウロの話聞いて信仰に入ってしまうと経済的に大きな損失を被る。邪魔をしたのはそのためでした。

理由はまだあります。エリマは魔術師だけあってバルナバとサウロが語る福音が、正しいものであると気づいています。このままいけば、自分の嘘や偽り、悪が明らかになり、この世界に居場所がなくなってしまう。だから邪魔をした。邪魔と言っても、具体的にどんなことをしたかは書いていません。しかしサウロの言葉の激しさから見ると、相当激しい抵抗をしたように思われます。

これは私の経験ですが、初めての方に聖書を開いて福音を語っているとき、相手の方は顔はにこやかに笑っている。周りの人には何も起きていないようにしか見えない。ところが、目に見えない霊的なところではその方から攻撃されている感じがしてくるのです。そのときはそれで終わったのですが、家に帰ってからどっと疲れが出て寝込んだことがありました。みことばを伝えるということは、あるときには霊の戦いを避けて通れない。そのことを覚えていただきたい。

3) 聖霊によって

「戦い」と聞いてびっくりしたかもしれません。でも大丈夫です。「使徒の働き」は別名「聖霊の働き」と言われ、今日の箇所にも「聖霊」が何度も出てくる。9, 10節。「すると、サウロ、別名パウロは、聖霊に満たされ、彼をにらみつけて、こう言った。「ああ、あらゆる偽りとあらゆる悪事に満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵、おまえは、主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか。」

サウロが攻撃的な性格だったので、エリマに真正面から戦いを挑むことができた、ということではない。何と書いてますか。「聖霊に満たされ」とあります。サウロの力業ではない。聖霊が助けてくださっているのです。こういう大胆なことができた。同じように私たちも自分の力で福音を語るのではない。聖霊が助けてくださることを願いながら、福音を伝えます。実際、今私は講壇に立ってみことばを語っていますが、ここに立つときに「主よ、あなたご自身がお語りください。どうが聖霊の力を与えてください」といつも祈らされるのです。

3 信仰に入った

1) 奇跡を見たから？

サウロとエリマの戦いはどうなったか。12節。「総督はこの出来事を見て、主の教えに驚嘆し、信仰に入った。」

総督が信仰に入った一番の理由はなんだったのか。「この出来事を見て」とあるので、魔術師エリマが突然目が見えなくなるという奇跡を見たから信じたのか。もしそうなら、教会で行われる伝道集会ではどんどん奇跡を起こして見せてあげたら信じる人がたくさん起こされる。人がバタバタ倒れるとか、すごいになると「死んだ人がよみがえりました」ということをうたい文句にして、伝道集会を開くグループもあります。

2) 神のことばによって

総督も魔術師エリマことをそばで見ていたのは確かですが、それが信仰に入った直接の理由ではありません。「主の教えに驚嘆し、信仰に入った」とある。総督は「主の教え」を聞いて信じました。では「主の教え」あるいは「神のことば」とはなにか。これは使徒の働き最初のところで、教会にはじめて聖霊が降ったときに、ペテロがはっきりと語っていたことでした。「あなたがたは罪によって救い主である方を十字架につけた。その罪を赦していただくために、悔い改めてバプテスマを受けなさい。そしてこの曲がった時代から救われなさい。」私たちがいつも聞いていることばです。キリストは、世の人たちには愚かなことに聞こえても、信じる者には神の力、神の知恵であるとパウロは第一コリントで言っています。たとえ愚かに思われたとしても、聖霊の助けをいただきながら、この一年も多くの人たちに救いの福音が伝えられていくことを願います。